

東日本大震災の教訓を踏まえ、今後の“防災教育の在り方”を考える

津波工学研究の第一人者 東北大学災害科学国際研究所 今村文彦教授講演

『生きる力』市民運動化プロジェクト シンポジウム in 関西

～東日本大震災を踏まえた南海トラフ地震のための防災教育～

開催のご案内

関西大学 社会安全学部では、このたび、東日本大震災の教訓を踏まえ今後の“防災教育の在り方”を議論する場として、「『生きる力』市民運動化プロジェクト シンポジウム in 関西」を、東北大学災害科学国際研究所(略称 IRiDeS、所長:平川新)の社会連携オフィス特定プロジェクト「『生きる力』市民運動化プロジェクト」の協力のもと、共同開催致します。

日本は世界でも有数の「自然災害大国」であり、災害は避けることができません。そのために必要な態度は、自然災害の脅威を科学的知識として理解し、事前に備え、そしていざという時に、生きぬくための正しい判断と行動ができる知力・気力・体力・コミュニケーション能力を高めることです。この能力こそが、“災害と共存して「生きる力」”です。この「生きる力」を一人ひとり育むことが、自然災害から命を守り、生活を守り、社会を守ることに繋がると考え、IRiDeS では「『生きる力』市民運動化プロジェクト」を 2012 年にスタートさせ、膨大な研究資料・データや、その研究に基づいた防災・減災技術など、産官学の知恵とノウハウを結集して、これまで以上に実践的な防災・減災、復興を目指した市民運動を展開してきました。

そして今回、東日本大震災の教訓を踏まえ、今後発生が想定される南海トラフ地震などの災害時に対応できる力を高めるための“防災教育の在り方”を広く議論する場として、IRiDeSとともに、「『生きる力』市民運動化プロジェクト シンポジウム in 関西」を開催する運びとなりました。当日は、津波工学研究の第一人者である東北大学災害科学国際研究所副所長 今村文彦教授より、これまでのプロジェクトに関するご報告および防災教育の在り方をご講演いただくと共に、関西大学社会安全学部 河田恵昭教授らが講演します。

つきましては、下記の要領でシンポジウムを開催致しますので、ぜひご参加ください。

記

【日時】2013年12月6日(金) 13:00～15:45

【場所】関西大学高槻ミュージズキャンパス ミューズホール

【主催】東北大学災害科学国際研究所

【共催】関西大学

【登壇者】(予定)関西大学社会安全学部 河田 恵昭(かわた よしあき) 教授
関西大学社会安全学部 高橋 智幸(たかはし ともゆき) 教授
関西大学社会安全学部 城下 英行(しろした ひでゆき) 助教
東北大学災害科学国際研究所 今村 文彦(いまむら ふみひこ)教授

【参加料】無料

【申し込み方法】メールにて ikiru2013@irides.tohoku.ac.jp 宛に

団体名(会社名) ②氏名 ③所属・役職 ④連絡先 をご記入の上、お申し込みください。

※申し込み〆切り 2013年11月29日(金)

【お問い合わせ】『生きる力』市民運動化プロジェクト シンポジウム in 関西 広報事務局

担当:東北大学災害科学国際研究所 助教 佐藤翔輔 TEL:022-795-7515

※ご記入いただきました個人情報は、本シンポジウムに関する管理運営目的や、東北大学が主催または共催するセミナーイベント等のご案内を目的として利用する場合がございますが、それ以外の目的で利用することはありません。

■『生きる力』市民運動化プロジェクト シンポジウム in 関西』について

【日時】2013年12月6日(金) 13:00～15:45

【場所】関西大学高槻ミュージックキャンパス ミューズホール

【主催】東北大学災害科学国際研究所

【共催】関西大学

【内容】(予定)

・基調講演①

「小・中学校における防災教育の主流化と必要な視点」

関西大学社会安全学部 河田 恵昭(かわた よしあき) 教授

・基調講演②

「自律型防災教育を実現するための教材の提供～専門家に頼りすぎない防災教育を目指して～」

関西大学社会安全学部 高橋 智幸(たかはし ともゆき) 教授

・基調講演③

「『分かり合う』ための防災教育～防災教育から防災共育へ～」

関西大学社会安全学部 城下 英行(しろした ひでゆき) 助教

・主催者報告

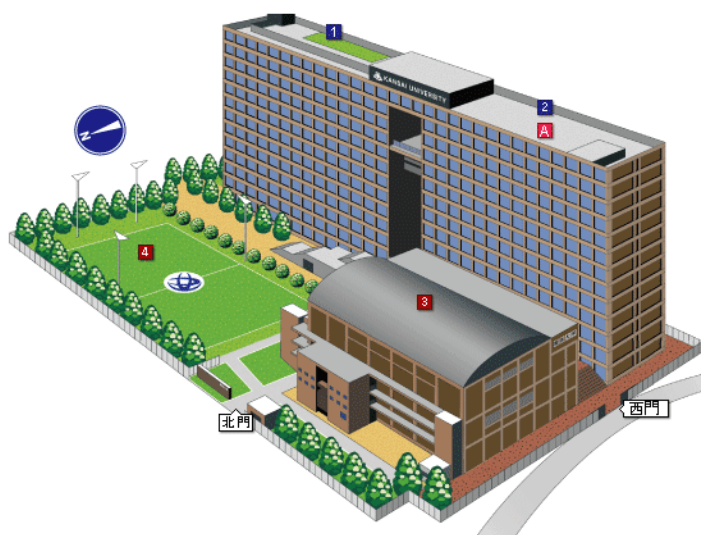
「生きる力を育む防災教育～東日本大震災を踏まえて、南海トラフ地震へ備えるために～」

東北大学災害科学国際研究所 今村 文彦(いまむら ふみひこ) 教授

・パネルディスカッション 「『生きる力』が日本を強くする」

※プログラム・講演者は変更する場合がございます。

【会場案内】



《JRでのアクセス》

JR 東海道本線で「高槻」駅下車、徒歩約 7 分

《阪急電鉄でのアクセス》

阪急京都線で「高槻市」駅下車、徒歩約 10 分

※右上図A(西館)内が会場のミュージックホールとなります。

ご参考

■東北大学災害科学国際研究所(IRIDeS) ^{イリデイス} について

東日本大震災という未曾有の災害を経験した東北大学は、2012年4月新たな研究組織「災害科学国際研究所」を設立しました。本研究所は、東北大学の英知を結集して被災地の復興・再生に貢献するとともに、国内外の大学・研究機関と協力しながら、自然災害科学に関する世界最先端の研究を推進する機関です。

東日本大震災の経験と教訓を踏まえた上で、わが国の自然災害対策・災害対応策や国民・社会の自然災害への処し方そのものを刷新し、巨大災害への新たな備えへのパラダイムを作り上げることを目指しています。このことを通じて、国内外の巨大災害の被害軽減に向けて社会の具体的な問題解決を指向する実践的防災学の礎を築くことを目標としています。

高い志と強い危機意識をもった、文科系から理科系まで7部門36分野の研究者がこの研究所に結集し、さまざまな視点から災害科学の研究を推進していきます。防災科学研究拠点に関わった多くの研究者が、災害科学国際研究所に専任教員または兼務教員・研究協力教員として所属しています。

■「生きる力市民運動化」プロジェクトとは

日本は世界でも有数の「自然災害大国」であり、日本人は長らくその災害と共存してきましたし、これからもその必要に迫られています。そのために必要な態度は、災害に正面から向き合い、「正しく脅えること」であります。自然災害の脅威を正しく理解して、過度に恐れたり絶望的にならないこと、逆に無視したり軽視しない、自分だけは大丈夫だと楽観視もしないことが大切です。

自然災害の脅威を科学的知識として理解し、それに対する事前の備えをおこなうことが必要です。そしていざという時に、生きぬくための正しい判断と行動ができる知力・気力・体力・コミュニケーション能力を高める。この能力こそが、“災害と共存して「生きる力」”であると考えます。

自然災害と正しく向き合い「生きる力」を育むことの重要性を国民一人ひとりに認識させる啓発活動を推進し、「生きる力」を身につけるための象徴的なアクションプランや啓発ツールを開発し普及することで、全国民を巻き込む運動として展開してまいります。

■「生きる力」市民運動化プロジェクトメンバー

◎プロジェクトリーダー

今村文彦（東北大学災害科学国際研究所 副所長・教授）

◎プロジェクトメンバー

邑本俊亮（東北大学災害科学国際研究所 教授）

杉浦元亮（東北大学加齢科学研究所 准教授、災害科学国際研究所兼任）

阿部恒之（東北大学大学院文学研究科 教授）

佐藤翔輔（東北大学災害科学国際研究所 助教）

保田真理（東北大学災害科学国際研究所 助手）

■プロジェクトリーダー プロフィール

今村文彦

山梨県生まれ。東北大学災害科学国際研究所副所長、教授。専門は津波工学および海岸工学。工学博士。学生時代から津波の災害対策に関心を寄せ、東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター教授を経て、津波工学の最先端の研究・教育と地域の防災力の向上に幅広く貢献している。自然災害学会前会長、内閣府中央防災会議専門調査会委員など各種委員も務めている。

